

平成31年度学校自己評価システムシート (県立富士見高等学校)

目指す学校像	規律ある落ち着いた環境で、生徒一人一人にきめ細やかに指導を行い、地域に開かれ信頼される学校
--------	---

重点目標	<p>1 生徒理解に基づきながら、「明るく挨拶」「身だしなみを整える」「時間を守る」を基礎とした、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、豊かな人間性と社会性を育む。</p> <p>2 少人数学級編制や習熟度別授業などにより、きめ細やかな学習指導を行うことで、確かな学力の向上を目指すとともに、全ての活動を通じて学習意欲を高揚させ、生徒一人一人の進路希望を実現させる指導を行う。</p> <p>3 学校行事や部活動等及び地域貢献を通じて、社会の一員としてたくましく生き抜く体力と気力を育む。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 4 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 4 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>〔現状〕 全教職員の共通理解の下、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立に向けた取組みが生徒に浸透してきている。</p> <p>〔課題〕 ・交通マナーや情報モラル遵守の指導を充実させる必要がある。 ・人間関係形成力の育成とともに心や家庭の悩みを抱える生徒に対する相談体制構築の必要がある。</p>	生徒の基本的な生活習慣の確立と人間関係形成意識を高める。	<p>①全教職員の共通理解に基づいた積極的な生徒指導と保護者との連携により、遅刻・欠席・早退者を減らす。</p> <p>②県教委指定の「道徳教育推進モデル校」として、人間としての在り方生き方に関する指導内容を実践する。</p> <p>③県教委指定の「自立支援事業」やSC、外部機関と連携し、生徒・保護者の教育相談等に応える。</p>	<p>①③遅刻者・欠席者・早退者数減少。</p> <p>②③問題行動による指導件数減少。</p> <p>②③交通事故件数減少。</p> <p>②③中途退学者数減少。</p>	<p>①3年生の遅刻者数が大幅に減少した。出席率は各学年 97～98%である。</p> <p>②③問題行動による指導件数は前年比1件増加。</p> <p>②推進モデル校公開研究授業(1/16)、道徳教育講演会(11/28, 1/23)を実施。</p> <p>③交通事故は4件発生(前年比2件減)</p> <p>④中途退学者数は減少した。(前年比14.3%減)</p>	A	生徒アンケート結果では、ほぼ9割(90.1%)の生徒が学校や社会のルールを守り、マナーが身に着いていると回答した。残りの1割の生徒をいかに減少させるかが課題となる。一方、中途退学者は減少傾向にあるものの、件数としては少なくはない。学年とSC・教育相談の連携はもとより外部機関の有効活用を進める。
2	<p>〔現状〕 授業態度は落ち着いており、生徒の取組み状況も向上している。進路指導部中心にきめ細やかな指導を実施し、一人一人の進路希望実現を果たしている。</p> <p>〔課題〕 ・基礎学力の定着化及び「主体的・対話的で深い学び」、新学習指導要領、大学入試改革に向けた取組みの継続性が必要である。 ・1年の段階から進路意識を高めるために組織的・計画的に進めることが必要である。</p>	生徒の学習意欲を高め、確かな学力を向上させる。	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うために、授業研修会・「授業互見」を実施する。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程編成を策定する。</p>	<p>①生徒の授業アンケート結果。</p> <p>①教員の「授業互見」を学期に1回以上。</p> <p>①「未来を拓く『学び』プロジェクト」への学校全体での取組み状況。</p> <p>②全教職員による分析を基にした在り方の検討。</p>	<p>①授業アンケート結果は9割以上が肯定的評価。</p> <p>①「授業互見」を1,2学期に1回ずつ実施した。</p> <p>①「未来学び」公開研究授業を実施。(11/8)</p> <p>②「授業改善研修会」各教科で実施。(9/26)</p>	B	授業改善の各取組の推進により、「わかりやすい授業」として生徒からの肯定的な評価は高い。(74.4%) 今後は、新学習指導要領を踏まえながら、地域性を生かし特色化した教育課程の編成が喫緊の課題となる。
		進路指導の早期化・体系化により、一人一人の進路実現を図る。	<p>①各種ガイダンス、進路補習内容、進路面談の充実を図る。</p> <p>②大学入試改革の情報収集を図るとともに、進路指導プログラムの体系化を更新する。</p>	<p>①進路補習の参加者数の増加。</p> <p>①②大学合格者増加。就職内定率100%。公務員合格者増加。</p> <p>①進路関係三者面談の充実。</p> <p>②民間の自学自習システムの活用状況。</p>	<p>①②進路補習参加者数、大学合格者数はともに前年並み、就職内定率100%を達成した。公務員合格者4名。</p> <p>②民間の自学自習システムを導入し、試行している。</p>	A	近年に見られる大学の合格難易度の上昇傾向にあって、例年並みの合格率を保っている。今後は、民間の自学自習システムを有効活用した学習量の増加と質的向上を図る。
3	<p>〔現状〕 文化祭や体育祭等の学校行事への来校者数が増加し、部活動加入率も向上している。9割以上の保護者が本校に入学させて良かったと回答している。</p> <p>〔課題〕 ・学校行事や部活動等の参加により、生徒の目的意識を更に高める必要がある。 ・生徒募集に更なる工夫が必要である。</p>	生徒が主体的に活動できるよう学校行事や部活動等を活性化させる。	<p>①学校行事や生徒会活動等への主体的な取組みを支援する。</p> <p>②部活動1年全員加入を継続し、活動を更に活性化させる。</p>	<p>①②生徒・保護者アンケート結果。</p> <p>①保護者の学校行事・PTA活動等の参加者数増加。</p> <p>②部活動加入率と活動実績向上。</p>	<p>①保護者の学校満足度評価は前年比-2ポイント。</p> <p>①参加者数は増加した。(前年比23%増)</p> <p>②部活動の加入率62.3%(5/10現在/全校)</p>	B	学校行事やあいさつ運動、PTA総会等、多くの保護者から協力が得られている反面、満足度の微減が課題である。 部活動の加入率も微減したので活性化が必要である。
		地域に信頼される学校づくりに向け、地域との連携を更に深める。	<p>①近隣の学校や施設等との交流活動、市主催の行事参加等での活動を奨励する。</p> <p>②全教職員による中学校訪問等の広報活動を効果的に実施する。</p>	<p>①交流活動、ボランティア活動等への参加者数増加。</p> <p>①メール配信登録者数増加。HPの更新回数及びアクセス数増加。</p> <p>①地域との連携の工夫。</p> <p>②入学志願者数増加。</p>	<p>①近隣学校交流会4回実施、生徒計49名が参加。</p> <p>①生徒・保護者の登録者数710件。HPアクセス数60238件(前年比11.6%減)、HP更新回数も若干減少。</p> <p>②志願者数は1.01倍となった。(2/21現在)</p>	B	近隣学校交流会をはじめ各部活動が積極的に参加し、地域交流活動は充実した。 HPのアクセス件数は減少した。今後は部活動の情報発信の量的拡大を図り、学校の認知度の向上が課題である。

学校関係者評価	実施日 令和2年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・挨拶や身だしなみ、マナーなど、きちんとできていると感じられ、地域住民からの信頼は厚いものと受け止めている。</p> <p>・一部の生徒の自転車運転やバス乗車マナーに課題が見られる。富士見高生としての交通ルールの順守を一層高める必要がある。</p> <p>・夢や希望を持って悔いのない学校生活を送って欲しい。</p> <p>・文化祭アーチのイベントアート甲子園での優秀賞受賞を評価。</p> <p>・習熟度別授業のおかげで「わかる」が増えているように考える。無回答の理由を突きつめ更なる改善を。</p> <p>・中学生に本校へ入学すれば3年間でここまで成長できると具体的に示すことが必要である。</p> <p>・特進クラスをはじめ、大学一般受験対策の教科指導をさらに充実させて欲しい。</p> <p>・個々の生徒が、達成する目標や決意を掲げ発表することで高校生活を生き生きさせられるのではないかな。</p> <p>・PTAも学校評議員も富士見高校の良さを機会あるごとに広く紹介していくので頑張ってください。</p> <p>・本校の各部活動の部員が、近隣中学校の同じ部活動に出向き交流する取組など、合同で行う中高の交流行事などを生徒会長として考えたい。</p> <p>・地域交流など、積極的にボランティアへ参加する生徒を更に広げていく工夫が必要である。</p>